



家庭の同行

どうぎょう

ひき出されてゆく

生きる力

やまの茂吉(和田重良)

- 穴のあきそうな心を「満たしてくれるもの」
- つないだ手は離さない「信じている」こと
- あそこに帰れば迎えてくれること
- 「あんしんできる」こと

(はじめに)

「教育」する前に……

教育の目的がおかしくなっているのです。何にも優先していきなり社会適応を持つてくるからいけないのです。この危い社会でウマク生きることを絶対条件にするからいけない

のです。教育と称して競争にかりたて、不安に陥れて意欲の動機づけをしようとしても、恐怖に縛られるだけです。非行や無気力や不登校を生んでいるものはなんでしょう。

「今やらないと落ちてしまうぞ」というオドシは本当は教育なんていうものではないです。真の教育に本気で取り組むのなら、「教育」する前にその辺をシッカリと押えておかなければならないのです。

その教育以前のこととして、「くだけけ」では「同行」と言っています。

同行と言うとすぐ「同行二人」を思い浮かべる人も多いかと思えます。四国のお遍路さんのアレです。

「くだけけ」では「同行」は「引き出されていく生きる力」すなわち「ホッとする所、お互い補い合ってる扶け合っている命の真実相、いきいきできる生活」だと考えています。

今回からしばらく、「あんしん講座」で先行して作製したテキスト「親と子の関わり方

和田重正言葉抄

親と子の、わがままごっこ

夏休みが終わった。この時「子ども」にとって、良い夏休みだったと思ひ、この満足感を秋への希望につないでいる親もあるだろう。

しかし、それはむしろ稀で、多くの親は「思うようにならなかった」と夏中のわが子の、わがままな生活ぶりを振り返り、その後姿に恨めしい視線を投げかけているのが実状ではないだろうか。

もし、そういう思いを味わっているならばその親はまず、「子どもは親の思うようにならないべきだ」という、その前提の当否をこの際深く検討しなければならぬ。

その精神活動の健全

提言」に基づき、「家庭の同行」として連載させていたことになりました。

最初は「年令相応の距離をとれ」というテーマです。次は「雰囲気を作れ」と続きます。これを書いていくうちに気がついたことですが、親と子の関係に限らず、人間同士の関係や社会全般の問題として、「互いが活かし合ってゆく」ということだということです。

そういう関係の中で初めて「教育」が成り立つのです。そこを飛ばして大切な「人間の教育」はできないのです。

逆に言えば「同行」が成り立てば「教育」の基本はたやすいことなのです。

家庭こそ「同行」の場

なぜ「同行」がよいのかというと、「あんしん」して「いきいき」と「いっしょに精進して成長」している姿だからです。

人間はどうしても「真のおとな」になって行くことが宿題として課せられているのです。大人も子どもも同じです。「真のおとな」になるための苗床のような場所が家庭なのです。



それが今は多くの家庭が、バラバラの個として別々に存在し、各自勝手なことをし合う潤いも湿り気もないパサパサな空間になってしまっています。

お父さんの影が薄い(存在感が無い)ばかりか、子どものことは全て母親に責任をなすりつけて省かないなんていうことをよく耳にします。

お母さんもすっかり外に目が向いてしまっている子どもに責任をなすりつけるものだから、子どもの側からも「つけ入るスキ」を活用してやろうという気が起きるのです。

パソコン、ゲームやり放題、インターネットト野放し状態で、子どもが親の言うことなんか耳も貸さなくなってしまうと初めて「どうすればいいんですか」なんて相談に来るので、すから、すでに手遅れです。

本来、家庭は子どもの生きる力が引き出されて行く場なのです。

な発展を願うなら、親のその思い上がり、わがままな要求こそ、まず問題なのではないか。

(昭和55年 くだかけ二十号より)

小さい頃から「みんなできいっしょに生きていく場、あんしんが得られる場」ということが伝わっていることが大切だったので。

「自立」と「自律」本当の意味

今回、この連載でせまりたいテーマが三つあります。

一つは「一人前にする」二つ目は「シッカリしろ」そして三つ目は「かわいい」について考えたいのです。それが、「親と子の関わり方」と言う内容のシリーズです。

例えば、精神的な「自立」とは、すなわち「自分」をどう生きるかということです。また社会的な「自律」とは、すなわち、みんなの中でどう生きるかをマスターして身につけなければなりません。実際は「自立」と「自律」が反対に使われているように思いますが。精神的な「自律」社会的な「自立」というふうに使われるので、人間関係が作れないでアップアップしてしまうのです。

ただし、理屈より実践、実行して実感していくことが大事ですから、来月号からの提言

をぜひ自分で実行してレポートを書いて提出してみたい。もちろん希望者だけに(す)

基本的な項目は「食」「睡眠」そして「性」のことをテーマに「生活」を整え、「遊」「学」「働」で「自分」を育てていくことです。

この基本項目はすべて「あんしん」のために営まれているということをしつかり押えておきながらいっしょに勉強していきましょう。

三本主義

どこでも聞いたことのない主義ですね。それもそのはず、ほくが作った言葉ですから。「本番に強い」「本気になれる」「本物を見分けられる」の三つの本が「自立」と「自律」の結果だと思ふのです。

周辺の人をよく見て、「自分(自己)」がどのように活かされているか、それはどういう人間関係の中で育まれているのか、次号から書いて行きます。